

一般講演・口頭発表 O-11

カメラによるニホンイシガメの産卵行動モニター II

菊水研二 (元岡「市民の手による生物調査」)

Observation of egg-laying behavior of Japanese pond turtle by interval shooting camera.

Kenji Kikusui

2年前より、市販の防水型コンパクトデジタルのインターバル機能を用いて、自然下でのニホンイシガメの産卵行動をモニターすることを試みている。ニホンイシガメが数多く産卵に現れる場所に設置し、1時間間隔のインターバル撮影をしてみると、産卵行動にはいくつかの傾向があることが判明した。それは、現場である福岡県福岡市にある九州大学伊都キャンパス「生物多様性保全ゾーン」では、ニホンイシガメの産卵は6月から7月まで行われ、雨が降ったあとの早朝に産卵行動が数多く見られる、ということがわかった。ところが、逆に解らないことも出来てしまった。産卵現場を歩いてみると、数多くの地面に穴の開いた産卵跡は見つかるものの、いくら探しても卵が見つからない。納得がいかない調査を止めてしまうわけにはいかない。そこで、カメラの数を4台から12台へと増やし、インターバル間隔を1時間から30分へと変更して調査を継続した。すると、12台設置したカメラのうちの1台に以下のような画像が記録されていた。

2013年7月2日

午前5:30 ニホンイシガメのメスが現れる	午前10:00 シマヘビは2匹となった
午前6:00 穴を掘る行動が見られる	午前10:30 2匹のシマヘビがイシガメの卵を飲んだようだ
午前6:30 産卵しているようだ(下写真)	
午前7:00 産卵を終え、穴を埋め戻した	午前11:00 2匹のシマヘビが現場から離れようとしている
午前9:00 同じ場所に1匹のシマヘビが写っている	
午前9:30 どうやら穴を掘り返しているようだ	午前11:30 2匹のシマヘビはいなくなり、地面には穴が開いている



上記以外にも、同年7月19日には、現場でシマヘビの穴掘り行動が目撃され、動画によって記録された。また、同年7月21日には、私以外の第三者によって同行動が確認され、穴から見つかった5個の卵のうち1個から、ニホンイシガメの子亀が孵化した。よって、現場に残されていた穴だけの産卵跡は、シマヘビによる卵の食害が推測される。